

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（平成29年度第3回）議事録

日 時：平成29年6月30日（金）10:00～11:55

場 所：国立がん研究センター 管理棟 第1会議室

出席者：中釜斉理事長、門田守人理事、松本洋一郎理事、児玉安司理事、間野博行理事、
南砂理事、小野高史監事、増田正志監事

欠席者：なし

I. 前回（平成29年度第2回）議事録の確認

- ・前回議事録について了承。
- ・議事録署名人を門田理事と増田監事に依頼。

II. 審議事項

1. 平成28年度決算

資料に沿って説明し、了承された。

主な意見等

- ・努力の成果が見られ、キャッシュ不足の問題にも対応した。他方、29年度以降は、減価償却費の増加、老朽化対策などさらに厳しくなる要因もあり、それに対応する必要があることも職員で共有すべき。
- ・診療報酬改定によりセンターの向かう方向が左右されないよう、働きかけていくことなども重要。
- ・将来、適切な投資を研究に充当していくことも必要。
- ・年度決算の取りまとめ作業が期間間際までかかっている状況について、改善が必要。

2. 平成28年度業務実績評価

資料に沿って説明し、了承された。

主な意見等

- ・自己評価について、昨年度の問題点が改善されていると思う。
- ・研究・開発について、医師主導治験の実績などは高く評価されてよいのではないか。

III. 報告事項

1. 経営改善：「将来像」等

資料に沿って報告された。

主な意見等

- ・ネットワークのハブ機能や「選択と集中」という点について、がんセンターが自ら役割分担を認識していることを対外的に示すとも言える。

- ・一般に、がんについて何でもやってほしいと期待されることが多いが、社会へのモデル提示や情報提供などに特化していく視点も大切。
- ・事務機能の強化も重要な課題。
- ・投資委員会の活動を継続していくことで、合理的な判断や全体を俯瞰する意識が向上していくのではないか。

2. がんゲノム医療推進コンソーシアム懇談会報告書

資料に沿って報告された。

主な意見等

- ・費用面もしっかり見ていくべき。そうでなければ、臨床面で持続性をもって実施できないのではないか。
- ・情報技術を担う人材は限られており、継続的な公費負担などコスト面のリスクが過大にならないようにすることも大切。
- ・個人情報の取り扱いも重要な課題。漏洩防止や悪用されないシステム作りが重要。
- ・新しい医療体制を作るという心構えで取り組んで行く。

3. 経済財政運営と改革の基本方針（骨太方針）2017等

資料に沿って報告された。

4. 平成28年度知財・産学連携報告活動

資料に沿って報告された。

主な意見等

- ・医学系の知財センターはうまくいかないことも多いが、がんセンターはうまく対応しているのではないか。
- ・今後、共同研究については、組織レベルで包括的に提案していくことなどが大切。医師主導試験など新しい分野を拡充していくことも重要。

5. 診療情報の紛失

資料に沿って報告された。

主な意見等

- ・問題発生に対する即応という点で、改善の余地があった。連絡体制をあらかじめ具体的に明確にしておくことが重要。

6. 給与規定の改正

資料に沿って報告された。

7. 広報実績

資料に沿って報告された。

8. 5月分月次決算

資料に沿って報告された。